生涯学習の現場
受験をしようと思った理由、授業を受けてみて

立教セカンドステージ大学 1 期生　　高橋　雅治

7 月 1 日掲載

現在、既に子供は成長して自立しており、彼らへの責任も終わり、後は夫婦で人生を最大限楽しみたいと常々話しています。ただし、今になって無理やり夫婦共通の趣味を探したり、常に一緒に行動したりなどは、夫婦とはいえ男と女の差に加え長年の結婚生活において、夫は企業戦士、一方の奥さんは家庭や子どもの学校を含めた地域社会で過ごしており、別々のコミュニティに所属していたので、現実には急に一緒に楽しめることは少ないと思います。それぞれの人格、人生を尊重し合うことが大切で、良かれと思ってした行為が相手を束縛してしまったり、干渉し過ぎたりすることになるのではないでしょうか。共通の楽しみは 1 つでも 2 つでもあればそれで良いと思います。

「何も今更大学で勉強しなくても物事の本質は分っているでしょう」と言われます。事実、今日まで会社での業務も含めて豊富な社会経験があり、物事の仕組みや、それらが結論に至るまでの推察は容易に判断できますが、今、じっくりと、結果に至るまでのプロセスを学問として勉強・研究してみたいと思いました。社会人を対象とした講座を開講する大学はありますが、それらは 1 カ月や長くても 3 カ月程度の期間でとても欲求を満たしてくれるものではありません。そんな中、この度の立教セカンドステージ大学の募集は私にとって、まさしく希望していたものであり、早速応募いたしました。幸いにして数多くの志願者の中から合格することが出来て喜んでいます。この度の開校は団塊世代のニーズに応えた的確な決断と感心しました。私はまだ顧問として、会社で引き続き業務を行っていることもあり、履修科目は充分には取れませんが、久々の教室での講義に人生がタイムスリップして一気に昔の気分に戻って授業を楽しんでいます。